

知善堂塾跡

飯塚を歩く

匝瑳探訪

—82—

最近、飯塚区の私塾について問い合わせがあったので紹介することにします。

豊和地区の飯塚区は干拓前の樁湖（はきう）に面し、飯（めしのこと）のような塚（こんもり盛り上がり）

た場所）が多かったことが地名となったのでしよう。近年の発掘調査により、古墳時代から平安時代にかけて匝瑳郡内の中心地であったとも見られています。

飯塚の地名は、1254年と1417年の記録に見られ、集落名の向郷（むかえ）、境郷（さかい）も当時の郷名と考えられます。1420年ごろから日蓮宗寺院が建てられ、本寺とよばれる光福寺などは初期の檀林としても知られています。

光福寺境内に寺本八郎右衛門の筆子塚（ふでこづか）があります。筆子塚は、江戸時代に庶民を教育した寺子屋や私塾（家塾ともいう）の師匠の死後に、教え子が建てた墓や塚をいいます。旧八日市場市域で見つかった筆子塚は60を超え、江戸時代後期から明治の初めにかけて存在した私塾や寺子屋は100近い数だったとされます。1816年に飯塚村の寺本が開いた知善堂塾は40人ほどで始まりましたが、筆子が増

えて教場が手狭になり1854年に建て替えられました。近隣の村々から片道約3キロを通う子や、寄宿する者もあったといえます。

1872年（明治5年）の学制の公布により、地域の私塾は小学校となっていくました。八郎左衛門、諱、省三郎と3代58年続いた知善堂塾も「飯塚学校」となり、光福寺を教場として明治9年に開校しました。

1889年（明治22年）の豊和村誕生後、大寺、飯塚、内山の3校の統合による豊和小学校の開校は1901年でした。

飯塚小学校校長だった寺本省三郎は、1895年ころ簡易文庫・寺本図書館を運営しています。この図書館は「仰高」（きやうこう）図書館とよばれ、県内の簡易文庫としては早い時期の開館とされています。

知善堂塾跡はきれいに整備され、3代の頌徳碑（しょうとくひ）がその名残をとどめています。市指定文化財の標柱には、1957年（昭和32年）に指定されたことが記されています。

（元 市職員・依知川雅一）

同 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080

知善堂塾跡

昭和



3代の頌徳碑がそびえる知善堂塾跡